



ILMR

NEWSLETTER

No. 21

発行
2015年6月30日

佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター ニュースレター

CONTENTS

- COMPAS プロジェクト成果報告シンポジウムの開催報告
- 地盤改良ワークショップ開催報告
- 2015年度諫早湾保全生態研究グループの有明海調査参加報告
- SAGA 建設技術フェア 2015 に参加して
- 有明海サイエンスイベント開催予告

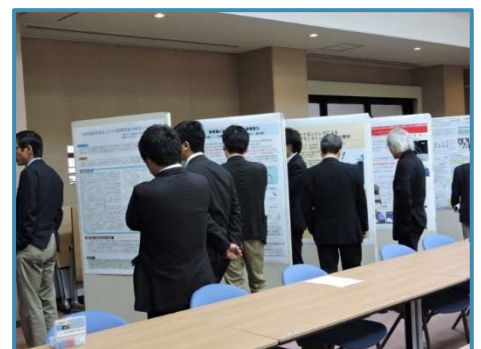
本センターは、「低平地・沿岸海域」を切り口とする国内唯一の学術研究機関として、有明海およびその沿岸低平地の諸問題はもとより、アジアの低平地研究の中核的拠点として広く研究成果を発信するとともに、恰好の研究・教育フィールドを活かした国際的・地域的な研究・教育を推進しています。

COMPAS プロジェクト成果報告シンポジウムの開催報告

有明海では、赤潮の増加や貧酸素水塊の発生など、環境異変が問題になっており、漁獲量の減少と相まって社会問題化しています。また、有明海には多くの固有種・準固有種の生息が知られており、生物多様性保全の面からも、それらの生息環境の再生が危急の課題となっています。一方、平成 25 年 12 月には福岡高裁において中長期開門の実施を命じる判決が確定し、様々な議論がある中で、地元地域では開門の科学的評価・分かりやすい説明が強く望まれています。また、開門による環境改善効果の程度にかかわらず、有明海的环境異変は 10 年以上続いており、有明海的环境変動機構の解明と実効性ある再生策の必要性は極めて高いといえます。

こうした背景をふまえ、有明海地域共同観測プロジェクト (COMPAS) では、有明海的环境異変問題・諫早干拓問題の解決に資することを目的として、佐賀大学がハブとなって有明海沿岸の 4 大学が連携し、それぞれの持つ知識・技

術を結集して調査・解析を行っています。さらに、研究結果を分かりやすく市民・行政に伝え、また、大学の知の集積・技術を生かして有明海再生に向けた地域の活動支援を実施しています。さて、COMPAS も 2 年が経過し、その活動の中で様々なことが明らかになってきました。そこで、2015 年 3 月 28 日にシンポジウムを開催し、これまでの成果を報告するとともに、今後の COMPAS のあり方や有明海研究の将来についての議論を行いました。参加者は 56 名で少人数でしたが、口頭発表 7 件、ポスター発表 17 件を基に深い議論が展開されました。





また、今回はプロジェクトのさらなる発展を期待して、九州大学の磯辺篤彦教授に「近未来の沿岸海洋学における社会貢献のかたち」というテーマでご講演頂き、今後の研究について議論しました。各発表タイトルに関しては下記のホームページに掲載しています

ので、ご覧ください。

■2014 年度成果報告シンポジウム報告

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/COMPAS/event/sympo20150328-1.html>

地盤改良ワークショップ開催報告

4月25日(土)に低平地沿岸海域研究センターと日本材料学会地盤改良部門委員会の共催で「地盤改良ワークショップ」を開催しました。このワークショップでは、大学の研究者ならびに地盤改良の第一線で活躍する技術者を交えて、未改良の軟弱地盤の沈下問題や地盤改良技術に関わる話題について意見交換を行いました。当センターからは日野教授と末次准教授がそれぞれ「地球温暖化がもたらす地盤の環境変化と災害～海面変動が地盤環境に及ぼす影響と評価～」と「低平地流域における地盤防災に関する取組～河川堤防に関わる地盤工学的課題～」というテーマで話題を提供しました。

日野教授の講演では、筑紫平野の形成プロセスや地球温暖化に伴ってこれ

から発生するであろう地盤環境に関する課題について、講演終了後も参加者から熱心に質問されていました。末次准教授からは、低平地沿岸部における固化処理地盤の劣化とそのメカニズムに関する最新の研究成果が紹介され、参加者と活発な議論がなされていました。また、前日の24日(金)には、佐賀県有明海沿岸道路整備事務所にご協力いただき、現在、建設が進められている有明海沿岸道路の軟弱地盤対策(深層混合処理)工事の現場見学会を開催しました。六角川橋梁のアプローチ部分の建設現場で稼働している地盤改良マシーンや、対策済みの軟弱地盤上に設置された道路用ボックスカルバートを見ながら、参加者同士で意見を交わしたり、現場技術者や佐賀県担当者に熱心

に質問したりしており、参加者の関心の高さが伺われました。



2015 年度諫早湾保全生態研究グループの有明海調査参加報告

本調査は長崎大学の東幹夫名誉教授、静岡大学の佐藤慎一准教授らが中心となって構成される諫早湾保全生態学研究グループにより有明海湾奥部から湾中央部、諫早湾および調整池を対象として毎年6月に実施されている調査で、今年でなんと18年目に当たる。さらに今年度は有明海全域を含む調査の年となっており、約100地点でベントスを

中心とする調査を4日間で行うことになっている。この調査には3年前から吉野も参加・協力しており、昨年は都合がつかず参加を見合わせるようになったが、今年は6月7日の諫早湾調整池16地点の調査にのみ参加することができた。調整池内は一昨年まで我々のグループでも独自に調査を行っており、堤防締め切り前に棲息していた海産・

汽水産のベントスはほぼ皆無で、堤防外側ではみられないユスリカ類や貧毛類のみの極めて貧相な状態になっていた。しかしながら採集時期にもよるのだろうが、我々がカバーしていなかった地点で海産のヨコエビが今でも採取されることがあると聞いていたため、このヨコエビを採集できるかと期待していた。

調査当日は風もなく曇りで、暑くも寒くもないという絶好のコンディションであった。毎回こんな天気であれば言うことはないのだが、そうもいかないのが野外調査の厳しいところである。筆者は底生生物の採集ではおなじみの採泥器で採取された泥をふるう作業を主に手伝った。ふるうだけであれば割と誰でも行える作業であるが、余分な泥をふるった後のサンプルを含む残留

物の回収にはそれなりに技術を要する。筆者自身のルーチン調査では残留物をふるいの端に寄せて直接袋に入れ込むのであるが、この調査の流儀では中央に寄せてバットに開けてから袋に入れる。この中央に寄せるというのは、実際にやってみればわかるが、思いの外難しい。筆者は毎回、東名誉教授の鮮やかな手つきに感嘆してしまう。さて、肝心のヨコエビはどうだったかというと、

残念ながら今年度は会うことができず、調整池内の底生環境は我々が独自で行った時の状況と大差ない感じであった。今回ヨコエビには振られてしまったが、本調査は我々の調査では出会えない生物にも出会える良い機会でもあるので、今後も継続して参加していく予定である。

SAGA 建設技術フェア 2015 に参加して

去る平成 27 (2015) 年 6 月 10 日 (水) から 11 日 (木) にかけて、佐賀市文化会館イベントホールにおいて SAGA 建設技術フェア 2015 が催されました。佐賀大学低平地沿岸海域研究センターは、低平地研究会とともにブースの出展および技術発表に臨みました。

同フェアは、建設分野 (土木・建築) の技術・工法・製品などについて、産・学・官における技術情報の交流の場を提供し、技術開発や新技術導入の促進を図ることで建設産業の発展に寄与するとともに、一般の方々に建設業界の魅力や社会資本整備の必要性を認識していただくことを目的としたものです。佐賀県建設技術支援機構を筆頭に実行委員会が組織され、佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻および低平地沿岸海域研究センターの関係者も委員としてその後の準備に臨みました。

展示ブースと同じ会場に設けられた講演会場の壇上において、佐賀県建設技術支援機構・小野龍太理事長、荒木宏之低平地沿岸海域研究センター長 (兼・低平地研究会運営委員長) をはじめ各界の代表者によるテープカットを皮切りに、2 日間にわたるフェアが始まりま

した。講演会場では、両日ともに特別講演、災害派遣報告、技術発表、のように講演が催されました。また、初日では女性技術者講演も催されました。いずれの講演も立ち見を伴う盛況ぶりでした。展示ブースもにぎやかで、各ブースが工夫を凝らして来訪者の興味を惹いていました。閉会式で発表された来訪者数の速報値は総勢 1,200 名超とのことで、初回ながらこの上ない成功を収めたフェアだったといえます。



本学関係者が実行委員に選ばれた背景には、同フェアが教育貢献を果たしたいとの目的もありました。両日は佐賀県内における全ての実業系高校の生徒の皆さんが参加してくれたのをはじめ、本学理工学部都市工学科 1 年生の学生たちもお世話になりました。3 年生および大学院 1 年生の学生たちも翌年には就職活動を控えていることから、

自発的な参加に取り組んでくれました。生徒の皆さんや学生たちの興味を惹きつける妙技に長けた展示ブースがあり、舌を巻きました。



佐賀大学プロジェクト研究所「インフラ構造物長寿命化研究所 (所長: 石橋孝治教授 (佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻))」もブースの出展および技術発表に臨まれていました。伊藤幸広教授 (佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻) による同研究所の内容に関連した技術発表では、熱心にメモを取る高校生の生徒の皆さんがと



でも印象的でした。

低平地沿岸海域研究センターは低平地研究会とともに、両組織の活動内容のPRに努めました。また、平成27(2015)年4月25日(土)に生じたネパール地震災害の支援のことに触れさせていただきました。今回のブースの出展および技術発表の責任者(本稿文責者)の不手際のこともあり、当初は地質コア箱をぼつんと展示と寂しい雰囲気になりかけたブース案が一変、外国人スタッフ、研究支援推進員、事務

補佐員ならびに学生たちの気力あふれる努力のたまものによって魅力あふれる内容に様変わりし、お陰様で面目が立ちました。



主催団体の佐賀県建設技術支援機構によれば、SAGA建設技術フェアは今年度を含め、最低でも5回は継続して開催したいとのこと。また、両日の様子に関する詳細もまもなく公表されるようですので、こちら楽しみにお待ちいただくと幸いです。

■SAGA建設技術フェア2015
<http://www.sagacat.or.jp/fair.html>

有明海サイエンスイベント開催予告

有明海地域共同観測プロジェクト(COMPAS)では、市民との交流や、有明海情報を基にした海洋学の普及のため、様々なイベントを開催しています。今年度も様々な企画を考えているところですが、その中でいくつかのイベントが決定してきています。

そのひとつが「enjoy! 有明海〜知ろう・食べよう、『まえうみ』を〜」です。このイベントは地域の団体と協働して全日、様々な企画を実施していくものです。具体的には、8月1日、道の駅鹿島構内にある鹿島市干潟展望館やその周辺で、「市民の科学講座」や「子ども

科学教室」、「子ども科学相談コーナー」などをはじめ、有明海の代表的な生物であるムツゴロウを自身で焼いて頂く企画や有明海産ビゼンクラゲの解剖なども開催される予定になっています。夏の1日、有明海を賞翫してみませんか?

- **開催日時**：2015年8月1日 11:00～16:00 (但し、こども科学教室は 10:00～)
- **開催場所**：道の駅鹿島 (鹿島市干潟展望館周辺)
- **主催**：佐賀大学低平地沿岸海域研究センター、鹿島市干潟展望館、鹿島市民立生涯学習・文化振興財団、まえうみ市民の会
- **協力**：七浦地区振興会、長崎ペンギン水族館、マリンワールド海の中道、太良高校生物科学部
- **主な企画** (※都合により変更することがあります)：
 - ◆ 市民の科学講座「有明海学2015」の開催 (13:00～15:00)
 - ◆ ペンギンハイタッチ (時間帯未定)
 - ◆ こども有明海科学教室の開催 (10:00～12:00)
 - ◆ 水の流れの不思議～「川の水」はどこへ行く?～ (時間は適宜)
 - ◆ こども科学相談コーナーの開設 (11:00～16:00)
 - ◆ 実体顕微鏡で小さな生き物を見てみよう (常時展示)
 - ◆ ムツゴロウ焼き (11:00～15:00)
 - ◆ 生物の特別展示 (常時展示)
 - ◆ クラゲ解剖ショー (第一回 11:30、第二回 14:00、第三回 15:30)
 - ◆ ラムサール条約湿地登録に関する展示 (常時展示)

● ● ● 編集後記 ● ● ●

ILMR ニュースレターも No.21 となり、思い切ってデザインを一新しました。より多くの皆様の目にとまるよう、読みやすさを重視して作成しましたが、いかがでしょうか? また、今年1月に当センターに着任した木村圭講師が今号から編集担当に加わり、これまで以上に幅広く興味深い内容を配信できそうです。これからも ILMR ニュースレターをよろしくお願いたします。(木梨)

発行・編集

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター
 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
 TEL 0952-28-8582 0952-28-8846
 FAX 0952-28-8189 0952-28-8846
 E-mail ilt@ilt.saga-u.ac.jp
 ホームページ <http://ilt.saga-u.ac.jp>